

第9期計画の施策の体系(案)

I 社会参加・介護予防・健康増進の推進

自分の強みや興味関心に沿った社会参加の機会を得て、健康増進や介護予防につながる

- 1 社会参加機会の確保
- 2 健康づくり・疾病予防の推進
- 3 保健事業と介護予防の一体的実施

II フレイル予防の推進

市民が主体的にフレイル度チェックを実施して自身のフレイル度を把握し、早い段階で予防実践に取り組む社会の構築

- 1 フレイル予防の普及啓発
- 2 フレイル該当者等の早期把握
- 3 多様なフレイル予防の実践
- 4 多角的なフレイル度チェックと予防実践の介入
- 5 フレイル対策事業に係る連携体制の整備等

III 多職種連携・リハビリテーション機能の強化

高齢者がリハビリテーション等を活用しながらできる限り心身機能や生活行為の向上と維持を図る

- 1 認知症及び軽度の認知機能の障害に係る予防
- 2 リハビリテーションサービス提供体制の充実

IV 地域共生社会の実現

高齢者の意思決定・権利擁護の尊重、認知症を「自分ごと」として捉えるまちづくり

- 1 意思決定の支援及び権利利益の保護
- 2 認知症に関する正しい知識及び理解の啓発
- 3 認知症の人が他の人々と支え合いながら共生することができる社会環境の整備

V サービス・生活支援の充実

望む暮らしにあった介護サービスや生活支援を利用することができる

- 1 生活支援・介護予防サービス（総合事業）の充実
- 2 在宅生活を支援する各種サービス
- 3 見守り支援の充実
- 4 住環境確保支援
- 5 外出支援

VI 認知症ケアの充実

認知症の人が尊厳を保持しつつ希望を持って暮らすことができるまちづくり

- 1 保健医療サービス及び福祉サービスの提供体制の整備
- 2 認知症の人及び家族等に対する支援
- 3 見守り支援の充実
- 4 相談体制の充実
- 5 若年性認知症の人への支援
- 6 認知症の人の生活におけるバリアフリー化の推進
- 7 本人・家族視点の施策の充実

VII 入退院時連携の強化

高齢者が切れ目のないケアを利用でき、生活を継続することができる環境づくり

- 1 在宅医療・介護連携の推進
- 2 急変時と入退院時の情報共有の円滑化等

VIII 在宅での療養・看取り体制の整備

本人の希望に応じた療養から看取りへと続く体制の整備

- 1 日常の療養体制の整備
- 2 本人が望む暮らし方の希望の把握
- 3 在宅看取りに関する情報の発信等

IX 持続可能なサービス提供体制の整備

医療・介護をはじめとするサービスの提供を持続可能な状態とする環境づくり

- 1 地域包括支援ケアシステムを支える人材の確保・育成
- 2 介護現場の生産性向上の推進
- 3 介護給付適正化事業

X 地域包括ケアシステムの推進

2040年に備えた地域包括ケアシステムの深化

- 1 地域包括支援センターの体制強化
- 2 地域ケア会議の充実
- 3 ケアプランの質の向上に向けた取組
- 4 多機関協働の推進
- 5 地域包括ケアシステムの構築状況の点検機能の強化

XI 災害・感染症に対する備え

- 1 災害に対する備え
- 2 感染症に対する備え

XII 介護保険制度の円滑な運営